

26年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 33.3	△ 20.8	△ 8.3
	マツ	△ 31.8	△ 27.3	△ 18.2
	広葉樹	△ 28.6	△ 21.4	△ 14.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 9.1	△ 4.5	△ 4.5
	マツ	△ 18.2	△ 13.6	△ 4.5
	広葉樹	△ 7.7	△ 7.7	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 20.8	△ 16.7
	マツ	△ 29.2	△ 20.8	△ 16.7
	広葉樹	△ 35.7	△ 32.1	△ 25.0

チップ用国産原木の入荷は、いずれも減少傾向で推移。

原木の消費は、広葉樹の10月横ばいを除いて、いずれも減少傾向で推移。

在庫も、いずれも減少傾向で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ	16.7	16.7	8.3
マツ類	8.3	8.3	8.3
広葉樹	3.6	0.0	0.0

チップ用国産原木の購入価格は、スギ、ヒノキは、やや強保合で推移、広葉樹は総じて保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・仕入れ動向は、8月は暑さとお盆の影響が予測される。9, 10月については横ばい。消費は変動なし、在庫は8月については仕入れの動向によりやや減少と予測される。9, 10月については変動なし。
- ・生産計画に伴った仕入れ、スギは注文に応じた生産、広葉樹は計画数量に伴った生産。
- ・スギ・ヒノキは天候、伐採時期も悪く出材が減少、広葉樹入荷は大きな変動ないが天候の影響で入荷減少、消費は、消費税アップ以降、製紙会社等製品の動きは悪くなっているが原木消費の変動なし。在庫は入荷減の影響で減少。
- ・前半は雨の影響で入荷量が減少したが、天候回復とともに増加、国有林の伐採やふくしま森林再生事業の始まりにより針葉樹の増加が見込まれる。
- ・8月に入り雨続きで作業が少し進まない、天候回復すれば通常入荷となる。消費は針葉樹、広葉樹ともに高水準、スギ、ヒノキはFIT対応の間伐材等の在庫を積み増ししているため在庫は増加、しかし、製紙用の一般材は消費が良いため減少。広葉樹は適正在庫になり横ばい。
- ・仕入れはお盆休みで減少、消費は変わらず。
- ・広葉樹一般材の入荷減少、国有林の生産請負からの出材の入荷が始まる。消費減少、在庫減少進む。
- ・原木が木質バイオマス発電用に流れている傾向ある（買い取り価格の関係で）。
- ・原木仕入は、県内でバイオマス発電所が年内稼働のため素材業者は様子見の状態、製紙関係から増産要請あり、在庫は入荷より使用量が大きく減少している。

(原木価格)

- ・変動なし。
- ・木質バイオマス発電関係により原木価格が値上がりの状況。
- ・原木不足・FIT用原料との競争により上昇。
- ・変わらず。
- ・全樹種変化なし。
- ・広葉樹入荷減少で仕入れ単価上昇。
- ・バイオマス発電の稼働予定があり、原木価格は上昇。

26年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 13.6	△ 13.6	△ 13.6
	マツ類	△ 22.7	△ 22.7	△ 13.6
	広葉樹	△ 11.5	△ 11.5	△ 11.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 20.8	△ 20.8	△ 20.8
	マツ類	△ 29.2	△ 20.8	△ 20.8
	広葉樹	△ 17.9	△ 14.3	△ 14.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 30.0	△ 25.0	△ 20.0
	マツ類	△ 30.0	△ 30.0	△ 20.0
	広葉樹	△ 22.7	△ 22.7	△ 18.2

木材チップの生産、出荷及び在庫は、いずれの樹種も減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	26/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ類	4.2	0.0	4.2
マツ類	0.0	0.0	4.2
広葉樹	0.0	0.0	3.6

木材チップの出荷価格は、スギ・ヒノキ類は8月やや強保合、9月横ばい、10月やや強保合。
マツ類及び広葉樹は、8月、9月は横ばい、10月はやや強保合。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・生産、出荷、在庫共に変動なし。
- ・スギチップ加工製品(粗飼料、敷料用)は、生産、出荷、在庫共に横ばい。
- ・製紙用等受け入れは横ばい状況であるが、原料入荷減で生産が落ち込む状況。出荷は製紙等受入は問題ないが原料不足で減少。在庫は減少。
- ・生産、消費は、製紙用は針葉樹、広葉樹共にフル稼働、昨年から一部FIT発電用を出荷したが現在の丸太価格では合わないので在庫積み増し、チップ在庫はしていない。
- ・生産は変わらないが、原材料の入荷が心配。
- ・広葉樹入荷減少で生産調整となる、在庫なし。
- ・製紙からの増産要請あり、燃料は相変わらず抑制基調である、製紙からの増産要請でNC、ピンチップを増出荷した、在庫は全体的に減少している。

(木材チップ価格)

- ・変動なし。
- ・原木価格アップで製紙会社等、値上げ交渉を行っている。
- ・変わらず。
- ・スギ、ヒノキチップ価格は今月少し上がった、これは最近の原木のコストアップに対応したため、また運送会社へ支払う燃料サーチャージ分も追加となった、広葉樹は全く変わらない。
- ・トラック運賃、素材の値上げによりチップ価格の値上げを望む。
- ・現状維持。